

学校名	福岡市立博多工業高等学校		学校経営方針・学校教育方針	今年度の重点目標	評価(総合)	
学校長	ふりがな	みやざき しんすけ	(1) 「新しいふくおか教育計画(後期実施計画)」および「福岡市立高等学校活性化に向けた取組方針(第2次)」に則り、具体的方策の推進に組織的に取り組む、「都市型工業高校」を目指す。 (2) 教育目標達成のため、学習指導、進路指導、生徒指導等に、各学科、各部、各教科、各種委員会が連携・協力した組織的・機能的な学校運営を行う。 (3) 工業高校の「ものづくり」をはじめ、魅力ある諸教育活動を通してスペシャリストを育て、産業界や地域社会から求められ、期待される生徒を育成する。 (4) 本校諸教育活動を通して、社会人として求められる挨拶や礼儀、マナー、言葉遣い、規律、自己表現力、コミュニケーション能力、公徳心等を身に付けさせる。 (5) 生徒の学力や能力を伸ばさせ、安心・安全に過ごせる学校生活を保障する。 (6) 体罰・セクハラ防止、飲酒運転の根絶、適切な情報管理、個人情報保護などを徹底し、信頼される学校経営を行う。 (7) ユニバーサルデザインに基づく教育環境づくりや合理的配慮を含む特別支援教育の推進を行う。	(1) 「行動」をセーターに、生徒会を中心とした挨拶運動・環境美化運動を継続し、規律を守り、自発的な判断・行動能力を高めさせ、諸行事の円滑化を図り、誇りを持たせる。(総務部) (2) 教科指導を強化し、生徒個々の学力の向上を図り、進路実現に繋げる。評価制度の点検および改善、平成31年度実施に向けた新進学コースの教育課程編成に取り組む。(教務部) (3) 社会の一員として適切に行動できる生徒の育成のために、社会的な資質や能力・態度を身につけさせる。また、博工スタンダードとして「挨拶・身だしなみ・話を聞く態度」の確立に取り組む。(生徒指導部) (4) 生徒へ適切な就業観・職業観を養い、全ての生徒の進路実現に応える。また、新たな大学入試制度改革に備え、平成31年度実施に向けた新進学コースの設置に取り組む。(進路指導部) (5) 部活動・ものづくりを通じて、個々の「人間力」「チャレンジマインド」の向上を図るとともに、各大会や競技会での上位入賞を目指し、活気ある学校づくりに取り組む。(特別活動部) (6) 学科募集制度の検証を行い、更なる、各学科の特色を持ち、工業技術「各種競技会・資格取得・ものづくり」の向上のために企業や大学等との積極的な連携や知的財産教育等に取り組む。基礎から高度な技術まで身につけさせる。工業教育推進部) (7) 生徒・保護者との関わりをさらに深め、寄り添い、楽しい学校づくりのための人権感覚を養う。(人権教育推進担当)	学校自己評価	学校関係者評価
	氏名	宮崎 信介			B	B
校長本校在任年数	3年					
学校関係者評価委員会委員長	ふりがな	ふくしま さだあき			B	B
	氏名	福島 貞昭				

昨年度の成果と課題	◎成果:①A事業による校内ICT浸透とわかる授業化への進歩, ②生徒会主体による活動の定着, ③ものづくりコンテスト県1位・県生徒研究発表最優秀賞など工業に係る活動で結果を残した ◎課題:①評価規準・基準の検討, ②規範意識の育成に向けて更なる取組の実施 ③早期離職防止に向けた取組, ④生徒会活動の更なる活性化, ⑤時刻変更による放課後の資格取得指導時間の有効活用, ⑥SNSに係る新しい指導方法の模索
-----------	---

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点	
	目標	具体的方策						
教育課程・学習指導	教科指導の強化	授業アンケートを活用し、情報の共有化を図り、授業改善の工夫を行う	B	授業アンケートによる各教科担当の先生方による1学期の反省と課題を2学期へ明確に取り組んでいた点に関しては一定の成果は上がっていると思われる。一方で先生方の授業を定期的に見学するという計画を複数回行うことが出来なかった。	B	新進学コースがスタートするようですが、教育課程の工夫はもちろん、先生方の情熱で生徒の進路実現にこたえていただきたい。授業アンケートは、生徒の授業満足度を表す貴重な資料である。課題を解決し、分かる授業の創造に努めていただきたい。	来年度は「授業の中身」について考えていく必要があると思われる。そのためには、授業ごとに行うループリックの導入や振り返りアンケートなどで各先生方の授業点検を行えるよう改善したい。	
	教育課程の編成	来年度予定されている新進学コースに向けた教育課程編成への取り組み。 学習指導要領に応じた評価基準の検討を行い、観点別評価基準の検討を行う。	B C					B C
生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	自己指導能力の育成に向けた指導体制の構築	B	生徒会役員や生活委員会の交通安全指導等を通して、主体的に規律やルールを守ろうとする意識が少しずつ生徒に浸透してきた。問題行動については、職員の連携を密にし、組織的な指導体制のもと指導(善導)に当たれたが、問題行動の未然防止を図ることが必要である。	B	日頃から、規範意識を高めるため、継続的に忍耐強く指導をお願いしたい。自転車乗車マナーやインターネット(SNS)の活用等は、先生方全員で指導にあたっていただきたい。	今年度同様に関係機関や生徒会役員と連携した交通安全指導や生活専門委員による下校指導を徹底して行っていくことで、規律やルールを守ることの必要性を生徒に浸透していく。問題行動の未然防止のため、規範意識を育む教育活動を充実させる。	
		全職員、生徒会生活委員会による登下校指導(挨拶・身だしなみ・自転車マナー)と風紀検査での徹底指導	B					
進路指導	確かな進路実現(就職指導)	正しい生活習慣と基礎学力を定着させた生徒を育成することで、企業との信頼関係を確立させる。 キャリア教育の充実・企業との連携により、早期離職者の防止に努める。	B	企業が学校現場に求める人材育成を把握するために「学校と企業の連絡協議会」を実施し、協議内容を職員へ周知した。早期離職問題に関しては解決しておらずこれまでに以上に企業との連携を密にし改善策を講じる必要がある。	B	生徒各人に対する進路保障は学校の大きな責任課題である。現在は、ほぼ実現されているようですが、今後とも生徒の進路目標・情報を確認して進路実現にご尽力をお願いしたい。早期離職者対策として、人間として「生きること」「働くこと」等など人間が生きていく上で基本的な「心」を身につけることが必要ではないかと思うので、そのような講話もお願いしたい。	次年度においても「学校と企業の連絡会」を実施したい。会社数を増やし教員と人事担当者の意見交換ができる機会を多くしたい。早期離職問題の解決に向けて行事・取組の見直しをおこなう。	
	確かな進路実現(進学指導)	学級担任等と連携し、生徒個々に応じた進路相談、指導や支援を充実させる。 積極的に情報を収集し、校内の指導・支援体制の改革・改善を行うなど、学校間(大学・専門学校等)連携の推進に努める。	B					B
特別活動	生徒会・部活動の活性化	生徒会専門委員会における諸活動の活性化	B	体育祭・油山祭等の学校行事や校内教育活動において生徒会専門委員会が各分掌と連携し、それぞれ機能することで運営がスムーズで、内容を進化させることができた。また、部活動生においては学校行事に積極的に参加することで自尊感情を高め、活動を意欲的に実施することができた。	B	生徒の主体的な魅力、学校全体の特色や活力づくりのためには、活発化することが必要である。全職員での対応を期待します。	今年度の反省を活かし、生徒会専門委員会それぞれの活動内容を更に進化させ、校内分掌との連携を密にしていきたい。また、部活動生に対しては、様々な場面で自尊感情を高めて、何事にも積極的に取り組む姿勢を意識させて活性化に努めたい。	
		部活動生の意識向上と諸活動の活性化	B					
工業特色	「ものづくり」技能・技術の向上、工業各科の授業・実習内容の向上・見直し	各科の工業に関する専門性を向上させるため、外部との連携を積極的に図る。課題研究、知的財産教育の推進・充実を図る。 ものづくり技術を向上させ、ものづくり競技会などでの成果を高める。地域や中学校に対する広報活動を充実させ、本校の取り組みを積極的にアピールする。	A	課題研究の校内成果研究発表会の内容が向上し、本校代表の機械科が県の発表会で3位の好成績を修めた。知的財産教育も活発に行われ、九工研の発表会において最優秀を修め、デザインバントコンテストでは、優秀賞2名(内1名が日本弁理士会会長賞)を受賞した。高校生ものづくりコンテストにおいても、旋盤・家具工芸部門が県で優勝、自動車整備が3位、家具工芸は九州大会でも2位入賞を修めた。	A	工業高校の魅力や、特色を象徴する資格取得や研究発表会において、すばらしい成績をおさめていて立派である。工業高校の誇りとして、ものづくりに対する資質の向上も望まれると思います。全学科でのご指導をお願いします。	技術技能向上のための高校生ものづくりコンテストへの取り組みや、生徒研究発表会、知的財産教育の取り組みが、校内で活発化し県内や九州内での評価が高まってきている。今後も取り組みを、さらに発展させ全国レベルのものとなるように向上させていきたい。	
		資格取得プログラムを再検討し、専門性の高い資格や、難易度の高い資格習得を目指す	A					技能検定を中心とした、国家資格取得に各学科が取り組み、ジュニアマイスター顕彰認定者が大幅に増加した。全科ではないが、ものづくりマイスターの派遣により、本校指導者の資質向上に成果を上げた。
		資格取得指導を充実させるための、教員の資質向上を図る	B					
修学支援	生徒の自己実現に寄り添い、支援する	生徒・保護者の願いを聞きつつ、特別に支援が必要な生徒に対するきめ細やかな支援を行う	B	特別に支援が必要な生徒に対して、定期的に面談を行い、スクールカウンセラー等につなぐことができた。また、奨学金に関しては今年度から同窓会の厚意による奨学金制度をスタートした。今後も生徒の生活実態に寄り添い、必要などころに給付型等の奨学金制度の斡旋を進めていく。	B	生徒がかかえる学習支援、不登校、人間関係、家庭、いじめ問題等の悩みについて真摯に受け止め、スクールカウンセラーを活用し、問題解決に当たることが望まれます。先生方の資質向上のため、研修はぜひとも必要ではないかと思います。	今年度の反省を踏まえ、個々の事案について早期にケース会議を開き、生徒及び家庭の思いに寄り添える組織づくりを目指す。あわせて、生徒一人ひとりに出番がある雰囲気づくりを支援したい。	
		各種奨学金への相談体制を充実させ、新設された給付金制度への周知と理解を広げる	B					
		校内外で実施される研修会や学習会への積極的な参加を促進する	C					B
	差別の現実から学びを深める	生徒会活動との連携を深め、屋形原特別支援学校との交流学習を拡充する	B					

※ 学校自己評価は、5段階評価(S…目標を大幅に上回る達成度、A…目標を上回る達成度、B…目標どりの達成度、C…目標を下回る達成度、D…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取り組み状況等について記入すること。
 ※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(S~D)で評価すること。